



会長就任にあたって

山田 順治*

今回はからずも皆様のご推挙によりまして伝統ある、当プレストレストコンクリート技術協会の会長の重任を負うことになりました。

終戦直後、建設省土木研究所で磯崎正晴さんと一緒に、土木研究所にあった大型水平引張試験機でPC鋼線を引張って、矩形断面の小さなプレテンション方式のプレストレストコンクリート桁を作製して試験していたのを思い出します。珍しい桁だということで当時いろいろな方が見学にこられ、鉄筋端のフックになれた方々が、アンカーの形のないPC鋼線を見てこれで載荷時にPC鋼線が抜けずに載荷できるのかとか、せっかく導入したプレストレストも長年月の間にはだんだん抜けていってなくなるのではないとか、真剣に質問される方もあり、それに答えられるほど当時の私達は自信があるわけでもなかったような時代でした。

また、その頃東大の土木教室の学生がどこから聞きつけてきたのか、大学の展示会に珍しいのでプレストレストコンクリート桁を展示させてほしいというので、3本ほど運んでいったこともあります。しかし当時東大の教授をしておられた吉田徳次郎先生から、何かの理由で、今覚えていませんが、こんなのはプレストレストコンクリート桁のうちに入らないとお叱りを受けたそうで展示の陽の目は受けるに至らなかったのは残念なことでありました。文献も鋼弦コンクリートという翻訳の単行本しかない時代でしたが、これが私とプレストレストコンクリートとの因縁のはじまりでした。

当プレストレストコンクリート技術協会とは、役員こそしておりませんでしたが協会創設のときからいろいろな面に関係しておりまして、昭和37年から当協会の理事に就任し翌昭和38年からは常務理事をおおせつかり、その後常務理事を3期勤めまして、当時の会長であった友永和夫先生、坂静雄先生、松田俊正先生、吉田宏彦先生、田原保二先生らのもとで協会の仕事をさせて頂き、また最近昭和50年から梅村前会長の下で副会長をつとめました。

今回会長の重責に就きましたものの、今日のプレストレストコンクリート技術の進歩は昔日の技術にくらべてめざましいものがあり、特に諸外国に遅れている点も多々あるように思いますので、皆様の御支援の下に技術の研究は勿論のこと、現場施工技術にも力を注いで、当技術協会の一段の発展を図りたい所存でございますが、なにとぞよろしくご援助のほどお願い致します。

* 日本セメント株式会社専務取締役